学びの俯瞰図—やまなし教員育成指標を用いて—

山梨大学教育学部の4年間で学ぶことを図に表してみました。教員にとって必要な素養や専門性が、いろいろな授業科目から培われていくことがわかりますね。
 □は、様々な授業で得た見方や考え方を関連づけ、教育者としての基盤をつくる「学びの結び目」となる科目です。
 なお、このカリキュラムは山梨県だけでなく全国の自治体で求められている教員の一般的素養と専門性に対応しています。

やまなし教員育成指標 教員として必要な素養(全ステージ)

豊かな人間性と人権意識 優れたコミュニケーション能力 崇高な使命感と責任感 法令の遵守
 高い倫理観と規範意識 常に学び続ける力 ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力

【山梨大学教職大学院】

対応する主な科目

必修科目

対応する主な科目

大学院生

教科の本質と内容構成
 初等教科の教材研究と授業構想
 中等教科の教材研究と授業構想
 初等教科横断型・総合型プロジェクト実践論
 中等教科横断型・総合型プロジェクト実践論
 教育課程の内容と編成

学校・学級文化の創造と学級経営
 道徳教育の理論と実践
 特別の教育課程
 インクルーシブ教育
 子どもエンパワーメント論
 障害児の指導法
 発達障害児の心理
 教育相談・生徒指導論

小学校における接続期カリキュラムの実践と課題
 授業研究マネジメント論
 学校安全と危機管理
 教育法規とコンプライアンス
 学校改善論
 学校組織経営論
 現代学校・教師論
 教育政策の理論と実践
 教育・地域課題挑戦プロジェクト実践論
 山梨の学校改革

エビデンスに基づく教育支援

情報教育・ICT活用の理論と実践

全科目

やまなし教員育成指標		第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
ステージ		採用時	実践力養成期	専門性充実期・協働性養成期
各ステージにおいて目指す姿		教育に対する情熱と使命感を有し、今日の教育的課題を積極的にとらえようとしている	実践力を磨き、教員としての基礎を築くとともに、資質能力の向上を目指している	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化させるとともに、資質能力の向上を図っている
学習指導	授業計画	児童生徒の実態を理解し、学習指導要領の趣旨を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を立てている。	児童生徒の実態に応じて、各教科等の専門的知識を生かし、指導計画を立てている。	教科等の高度な専門性を生かした指導計画の立案において、指導的役割を果たしている。
	授業実践	学習指導要領における趣旨を把握し、各教科等の目標や指導内容、評価方法を理解している。	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を実践している。	学びに向かう力の育成や人間性を涵養する授業の実践において、指導的役割を果たしている。
	学習評価・授業改善		指導と評価の一体化に取り組むとともに、児童生徒の興味・関心を引き出す教材研究や授業改善を行っている。	適切な評価を基にした授業改善において、指導的役割を果たしている。
生徒指導	学級経営	児童生徒一人一人の特性を理解し、よりよい人間関係を築く土台となる集団づくりを行っている。	集団の課題に対し、同僚と協働し解決を図り、児童生徒の可能性を引き出す集団づくりを行っている。	自校の「育てたい児童生徒像」を意識した集団づくりにおいて、指導的役割を果たしている。
	児童生徒理解	日々の声かけや面談により、児童生徒の気持ちに寄り添い、信頼関係を構築している。	同僚と協働し、観察や情報収集を通じて児童生徒の理解を深め、課題解決に向け取り組んでいる。	児童生徒の課題を多面的に把握し、課題解決に向けて組織的な取組を推進している。
	道徳教育	児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導を行っている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	自校の教育活動全体を通じて、児童生徒の道徳性を高めるよう組織的な取組を推進している。
	人権教育	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	人権を尊重することの意義や必要性を認識し、児童生徒一人一人を尊重した指導を行っている。	人権が尊重された学校づくりをするために、家庭・地域と協働しながら組織的な取組を推進している。
	特別支援教育	児童生徒の実態を把握し、合理的配慮や教育的ニーズに応じた適切な指導を実践している。	特別支援教育の専門性を高め、同僚と協働し効果的な指導を行っている。	医療や福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。
	いじめ等への対応	いじめ等問題行動の未然防止・早期発見に努め、管理職や関係職員に報告・相談し、早期に対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向けた対処法を身に付け、協働して対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向け、関係機関と連携しながら、組織的に対応している。
	キャリア教育	キャリア・パスポートを活用し、将来の在り方や生き方を考えさせる指導を行っている。	児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力を、同僚と協働し育成している。	地域や産業界と連携し、学校全体による組織的な取組において、指導的役割を果たしている。
学校運営	教育課程	自校の教育目標と教育課程を理解し、効果的な指導の実現を図っている。	自校の教育目標達成に向け、カリキュラム・マネジメントに基づいた教育課程の編成・実施に参画している。	自校の実態に応じて改善を図ることや、「社会に開かれた教育課程」の編成・実施において、指導的役割を果たしている。
	連携・協働	自らの役割を理解し、同僚と協働しながら、その責任を果たしている。保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	ミドルリーダーとして同僚と協働し、積極的に学校運営に参画している。関係機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	チームとしての学校という視点を持ち、連携・協働による課題解決をリードするとともに、効果的なOJTを推進している。
	学校安全	学校安全計画や危機管理マニュアル等を理解し、安全管理に取り組んでいる。	学校安全計画や危機管理マニュアル等に基づいた取組を推進し、その改善に努めている。	安全管理に精通し、学校安全計画や危機管理マニュアル等の改善が推進されるよう、指導的役割を果たしている。
	働き方改革・業務改善	校務に積極的に参加するとともに、勤務時間を意識した働き方を行っている。	働き方改革に積極的に取り組み、勤務時間を意識した働き方をしている。	学校組織マネジメントの視点から、組織全体を俯瞰し、業務の効率化の具体的提案と推進を図っている。
特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	不登校や子供の貧困、ヤングケアラー、外国籍児童生徒等、児童生徒を取り巻く多様な背景があることを理解している。	児童生徒の個々の状況や背景を理解し、スクールカウンセラー等からの助言を受け、適切な支援をしている。	福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。	
ICTや情報・教育データの活用	学校におけるICTの活用の意義や情報・教育データの重要性を理解している。	授業や校務等にICTを活用し、児童生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成する実践を行っている。	ICTや情報・教育データを適切に活用し、校務の効率化及び児童生徒の学習等の改善を図っている。	ICTや情報・教育データの活用により、自校の課題を明確にし、改善に向けて指導的役割を果たしている。
自ら学ぶ姿勢	教員として学び続ける重要性を理解している。	自己の課題を認識し、必要な研修に主体的に取り組むとともに、広い視野をもって自己研鑽を積んでいる。	ミドルリーダーとして、積極的に研修に参加し、その成果を同僚と共有して、自校の教育活動全体に生かしている。	自校の教育課題に対応した研修を企画・立案し、チームとしての学校の組織力を高める取組を推進している。

実習
課題研究